

平成20年12月19日

## 平成20年度文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）

## 被表彰者の決定について

文化庁では、このたび、平成20年度文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）の被表彰者を決定しましたので、お知らせいたします。

1. 表彰の概要           文化芸術の力により、市民参加で地域の活性化に取り組み、特に顕著な成果をあげている市区町村に対し、文化庁長官が表彰する。
2. 被表彰数           4件
3. 表彰式           〈日時〉平成21年1月30日（金）11:00～  
                          〈場所〉国立新美術館（東京都港区六本木7-22-2）

なお、同日13時より、国立新美術館において、文化芸術創造都市に関するシンポジウムを開催します。詳細は後日お知らせいたします。

## （お問い合わせ）

文化庁長官官房政策課

政策課長 小松 弥生（内線2803）

課長補佐 多 昭彦（内線2804）

担当係長 竹之内勝典（内線2806）

電話 03-5253-4111（代表）

03-6734-2806（直通）

平成20年度 文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)表彰名簿

市区町村名	活 動 内 容
<p>さっぽろ 札幌市 (北海道)</p>	<p>札幌芸術の森(昭和61年開園)、札幌コンサートホールKitara(平成9年開館)やモエレ沼公園(平成17年開園)など、従来から、多くの文化施設を有し、芸術家が創作活動を行い、小学6年生全員を招待するKitaraファースト・コンサートをはじめ市民が文化芸術を鑑賞体験する機会を恒常的に提供してきている。平成2年開始のパシフィック・ミュージック・フェスティバルは、世界の若手音楽家の育成に資するとともに広く一般市民に世界的レベルの音楽指導を公開する催しとして、多くの団体、企業、市民の協力により実施されている。また、デジタルコンテンツ産業の振興を目的に、「札幌市デジタル創造プラザ」を設置し(平成13年)、新産業の担い手となるクリエイターの育成、ネットワーク形成、起業・マーケティング支援等を図っている。平成18年に開始した産学官と市民の連携による「札幌国際短編映画祭」は、数多くの国から出品され、子どもたちを対象とした映像教育や商店街や市民との連携による地域活性化にも努めている。札幌市立高等専門学校から発展して、デザイン学部を持つ札幌市立大学が開学し、市の文化芸術振興に寄与する教育・研究を行っている。これら、板垣市政、桂市政時代からの活動を通じて、札幌のブランド力を活かした「札幌スタイル」(少量多品種生産型)も生まれるなど、地元文化の創造・発信に取り組んでいる。</p>
<p>としま 豊島区 (東京都)</p>	<p>文化創造都市宣言(平成17年)に基づく、文化芸術振興条例を制定し(平成18年)、「文化と品格を誇れる価値あるまち」づくりを進めている。閉校となった学校施設を文化芸術創造の拠点とした「にしすがも創造舎」では、NPO法人の運営により、劇団や文化芸術団体等の作品制作や稽古等の場の提供、子どもたちのワークショップや地域住民との交流事業を実施している。また、平成19年オープンのあるすぽっと(舞台芸術交流センター)・新中央図書館において、舞台芸術の創造発信、担い手育成によるにぎわいの創出とまちの活性化を図っている。また、屋外空間における音楽やアートパフォーマンス等を楽しめるイベントの開催をはじめ、オープンカフェの設置など、まちそのものを創造空間とする取り組みや江戸川乱歩に関する資源の発掘、新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館など豊島区の文化資源の再発見、編集、創造に努めている。</p>
<p>ささやま 篠山市 (兵庫県)</p>	<p>篠山伝統的建造物群保存地区では、地元の自治会からなる「篠山まちなみ保存会」が組織され、保存地区の保存・活用を推進しており、市・保存地区住民・市民団体が強い連携のもと新たな活力を生み出している。史跡篠山城跡と城下町を中心とする集落景観とその背景をなす里山、更には祭礼等民俗文化財など文化財を総合的に把握し、継承・活用していくための歴史文化基本構想の策定にも取り組んでいる。また、篠山チルドレンズミュージアムでは、学校施設を転用し、子ども達の「生きる力」を育む拠点となる場所として、ユニークな活動を行うとともに、たんば田園交響ホールは、「丹波方式」と呼ばれる文化ボランティアを中心とした活動を行うなど、市民の手によるまちづくりに努めている。平成11年に、篠山町、今田町、丹南町、西紀町が合併して市制を施行後、篠山再生計画(行財政改革編及びまちづくり編)を策定し、歴史遺産や基幹産業である農業に係る伝統や文化も活用した魅力あるまちづくりに取り組もうとしている。</p>
<p>はぎ 萩市 (山口県)</p>	<p>市内には、毛利藩政約260年間に形成された城下町のたたずまいや町割りが残り、旧宅、寺院など日本を代表する文化財がまち中のいたるところに存在している。特に、重要伝統的建造物群保存地区は3か所も擁している。こうした文化財や貴重な景観が都市化とともに失われることを防ぐため、平成16年に萩まちじゅう博物館条例を施行した。この条例のもとに、市民自身が萩の魅力を再認識し、萩を訪れた人々にその良さや歴史を誇りを持って伝える「萩まちじゅう博物館構想」を、行政と市民が協働して推進している。具体的には、市民からなるNPO法人を中心とした萩博物館の管理運営、文化財の調査、外国人向けパンフレットの作成、ワンコイントラスト(百円信託)運動による未指定文化財の保護など、幅広い活動を行っている。これらの活動は文化財を周辺環境も含め総合的に保存・活用しようとする先進的な取り組みである。</p>

# 創造性をはぐくむ都市へ

近年、文化芸術の持つ創造性を活かした産業振興や都市再生の取組（いわゆる「文化芸術創造都市」）が、諸外国においても我が国においても大きな成果を上げています。「文化芸術創造都市」は、都市の魅力を世界に向けて発信するとともに、多くの人材をひきつけるものです。今後の自治体経営において、文化芸術の振興は、新たなキーワードとなるでしょう。

文化庁では、このような地方自治体の取組を推進するため、平成19年度に文化芸術創造都市に対する表彰制度を創設しました。

平成20年度の表彰に併せて開催する今回のシンポジウムでは、文化芸術の持つ創造性に着目した都市のあり方について討論を行うとともに、アジアをはじめとした国内外の諸都市間での交流・連携の可能性を探ります。

## \*パネリスト\*

安藤 忠雄（建築家、東京大学名誉教授）

佐々木雅幸（大阪市立大学大学院創造都市研究科教授）

蓮池奈緒子（NPO法人アートネットワーク・ジャパン代表）

平田オリザ（劇作家・演出家、大阪大学大学院教授）

宮島 達男（現代美術家、東北芸術工科大学副学長）

## \*コーディネーター\*

青木 保（文化庁長官）

## スケジュール

- 12:30 受付開始
- 13:00 青木保文化庁長官挨拶
- 13:05 林田英樹国立新美術館館長挨拶
- 13:20 パネルディスカッション
- 15:30 閉会

日時 平成21年1月30日（金）  
13:00～15:30（開場12:30）

会場 国立新美術館 講堂（定員250名）  
〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

参加費 無料・要申込（詳しくは裏面へ）

主催 文化庁

問合せ 文化庁 長官官房政策課 政策調整係  
Tel 03-5253-4111（内線3106）  
E-mail s-chosei@bunka.go.jp

## \* パネリスト紹介 \*

### 安藤 忠雄 (あんどう ただお)



建築家、東京大学名誉教授

独学で建築を学び、1969年に安藤忠雄建築研究所を設立。最近の主な作品は、表参道ヒルズ、地中美術館（直島）、国際子ども図書館、ピューリッツァー美術館（アメリカ）など。日本芸術院賞（1993年）、文化功労者（2003年）はじめ、受賞多数。阪神・淡路震災復興支援10年委員会の実行委員長として被災地の復興に尽力する。又、瀬戸内海の破壊された自然を回復させるため中坊公平氏と共に「瀬戸内オリーブ基金」を2000年に設立。

### 佐々木 雅幸 (ささき まさゆき)



大阪市立大学大学院創造都市研究科教授、大阪市立大学都市研究プラザ所長

1992年金沢大学経済学部教授(1999年～2000年ボローニャ大学客員研究員)、2000年立命館大学政策科学部教授、2003年から現職。金沢市文化活動賞(1999年)、日本都市学会賞(2003年)受賞。主著は『創造都市への挑戦』『創造都市の経済学』『創造都市への展望』『CAFÉ - 創造都市・大阪への序曲』など。近年は、文化産業を核とする都市に着目した創造都市論を展開しており、大阪市を中心に「クリエイティブ・カフェ」をはじめとする実践活動も行っている。

### 蓮池 奈緒子 (はすいけ なおこ)



NPO法人アートネットワーク・ジャパン (ANJ)代表、フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局長文学座、東京グローブ座勤務を経て、'97年東京国際舞台芸術フェスティバル(02年より東京国際芸術祭)実行委員会事務局入局。2000年事務局のNPO化に伴いANJ職員となり03年より事務局長、08年より現職。01年「廃校プロジェクト」を開始し04年豊島区旧朝日中学校に豊島区文化芸術創造支援事業として「にしすがも創造舎」をオープン。05年～「にしすがも創造舎演劇上演プロジェクト」、07年～「にしすがもアート夏まつり」をプロデュース。区民向け「読み聞かせ講座」なども企画。

### 平田 オリザ (ひらた おりざ)



劇作家・演出家、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授

1983年大学在学中に結成した劇団「青年団」を率いて、こまばアブラ劇場を拠点に活動。『東京ノート』で岸田国士戯曲賞(1995年)、芸術祭賞優秀賞(2000年)など受賞。2000年フランスでの『東京ノート』制作、上演をはじめ、ワークショップを含めた海外での活動も盛んに行っている。他にも障害者とのワークショップ、地元の駒場ほか、各自治体やNPOと連携した総合的な演劇教育プログラムの開発など、多角的な演劇教育活動を展開している。

### 宮島 達男 (みやじま たつお)



現代美術家、東北芸術工科大学副学長・デザイン工学部長

1988年、ヴェネツィア・ビエンナーレ・アペルト部門で招待され国際的に注目を集める。以来、海外25カ国でグループ展、個展を開催。国内でも精力的に活動を行っている。1999年には、ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館代表として選ばれ、代表作「Mega Death」を発表。宮島作品を代表する「デジタルカウンター」は、発光ダイオードによって光が数を刻み、明滅する数字は生まれては死んでいく生命を象徴する。ジュネーブ大学コンペティション優勝(スイス:1993年)、第5回日本現代芸術振興賞(1998年)など受賞。

## \* コーディネーター紹介 \*

### 青木 保 (あおき たもつ)



文化人類学者、文化庁長官

大阪大学教授、東京大学教授、政策研究大学院大学教授、早稲田大学アジア研究機構教授を経て、2007年4月より現職。この間、米ハーバード大学客員研究員、仏国立パリ社会科学高等研究院客員教授、独コンスタンツ大学客員教授、タイ国立チュラロンコン大学研究員なども務めた。サントリー学芸賞(1985年)、吉野作造賞(1990年)受賞、紫綬褒章(2000年秋)受章。

## \*\*\* お申込方法 \*\*\*

メール又はファックスにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを明記の上、下記へお申込ください。なお、定員を超過しない限り、特に返信はいたしませんので、予めご了承ください。

1月27日(火)締切

文化庁 長官官房政策課 政策調整係「創造性をはぐくむ都市へ」宛

FAX: 03-6734-3811 E-mail: s-chosei@bunka.go.jp